

## 情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会

## 放送業務委員会（第 34 回）議事概要（案）

日時：令和元年 7 月 4 日（木）14:00～15:20

場所：経済産業省 別館 218 号会議室

出席者：

都竹主査（名城大学）、伊丹主査代理（東京理科大学）  
浦野専門委員（日本テレビ放送網(株)）、大谷専門委員（東芝インフラシステムズ(株)）、  
中村専門委員（日本放送協会）、西田専門委員（日本放送協会）、  
日野専門委員（(株)TBS テレビ）、松井専門委員（(一社)電波産業会）、  
柳原専門委員（(株)KDDI 総合研究所）、吉野専門委員（NTT 未来ねっと研究所）

説明者：

大出氏（日本放送協会）、甲斐氏（日本テレビ放送網(株)）、薮氏（日本放送協会）、  
三谷氏（日本放送協会）

事務局：

総務省 情報流通行政局 放送技術課  
柳島課長、木村技術企画官、植田係長、樋口官

## 【配布資料一覧】

|           |                                     |
|-----------|-------------------------------------|
| 資料 放-34-1 | 放送業務委員会（第 33 回）議事概要（案）              |
| 資料 放-34-2 | 2019 年 7 月 ITU-R SG6 関連会合の概要        |
| 資料 放-34-3 | 放送業務 WG における検討結果                    |
| 資料 放-34-4 | <u>外国寄与文書審議表（案）一覧</u>               |
| 資料 放-34-5 | <u>日本寄与文書（案）一覧</u>                  |
| 資料 放-34-6 | <u>ITU-R SG6 関連会合への対処方針（案）</u>      |
| 資料 放-34-7 | 今後のスケジュール（案）                        |
| 参考資料 1    | 放送業務委員会構成員名簿                        |
| 参考資料 2    | 2019 年 3-4 月 ITU-R SG6 会合後に承認された勧告等 |

※下線部の資料は構成員及び関係者限り（紙配布）

## 議事概要

### 1. 配布資料の確認

事務局より、配布資料の確認が行われた。

### 2. 前回議事概要の確認

都竹主査より、資料 放-34-1「放送業務委員会（第33回）議事概要（案）」に基づき、第33回放送業務委員会の議事概要案が確認された。議事概要案について構成員からの意見はなく、案のとおり総務省 HP に掲載することとなった。

### 3. ITU-R SG6 関連会合への対応について

#### 3.1. ITU-R SG6 関連会合の概要について

事務局より、資料 放-34-2「2019年7月ITU-R SG6 関連会合の概要」に基づき、次回のITU-R SG6 関連会合について説明が行われた。西田専門委員より、7月17日（水）～19日（金）に開催される技術展示に関して、14～15件（日本からは5件）の展示が予定されている旨補足があった。

#### 3.2. 外国寄与文書への対応案について

西田専門委員より、資料 放-34-3「放送業務WGにおける検討結果」及び資料 放-34-4「外国寄与文書審議表（案）一覧」に基づき、外国寄与文書の審議表案について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

【6A/523 An.3 勧告ITU-R BT. 1877-1改訂草案「第2世代の地上デジタルテレビジョン放送の誤り訂正、データフレーミング、変調及び電波発射方法」】

都竹主査：日本から対案を予定しているのか。

西田専門委員：然り。ガイドラインについて対案を予定しており、日本寄書で示す。

【6C/429 An.2 新勧告草案ITU-R BT. [MIL]「HDR-TVの明るさを監視および管理するための客観測定アルゴリズム」】

都竹主査：MIL (Mean Image Level) について、人間の感覚は変化に敏感なので、単純に画像の明るさを平均してしまうのはどうか。

西田専門委員：どういう目的で使うかにもよる。元の提案者（BBC）によると、番組の中でシーンを切り替える際、明るさの変化（brightness shift）が大きいと視聴者に不快感を与えるため、そういったことへの注意に活用すると思われる。

なお、単純な平均よりは空間的な重み付けをした方が、より主観的な評価手法になるという研究成果もある。

#### 3.3. 日本寄与文書案について

西田専門委員より、資料 放-34-3「放送業務WGにおける検討結果」及び資料 放-34-5「日本寄与文書（案）一覧」に基づき、日本から提出される予定の寄与文書案について説明が行われた。質疑の概

要は次のとおり。

【A2 勧告 ITU-R BT.1877-1 改訂草案のシステム選択ガイドラインの別のアプローチの提案「第2世代の地上デジタルテレビジョン放送の誤り訂正、データフレーミング、変調及び電波発射方法」】

中村専門委員： P.19「TABLE 3」の「Requirements」2番に該当する「Relevant system parameters in Table 4」には5,6のみ記載があるが、正しくは5,6,9ではないか。

薮 氏： ご指摘のとおりかと思うので、9番を追記したい。

事務局： P.22「TABLE 4」の14番「Multiplexing scheme」について、ATSC3.0の欄一行目にFDMと書かれているが、これはセグメントのようなことができるという意味か。

薮 氏： この記載はAnnex 2の本文をそのまま転記したもの。完全なFDM（部分受信）はできないが、PLP multiplexingを使ってデータ信号だけを特定の周波数に並べるような配置は可能。ただし、復調に必要な制御情報やパラメータ情報は不可。

事務局： 例えば、特定の周波数にノイズがある場合、これを避けるような運用は可能か。

薮 氏： 制御信号は（ほとんど全周波数を使い）TDMで送信する必要がある。

事務局： 承知。

【C1 レポート BT.2245-6 改訂提案「HDR-TVを含むHDTVおよびUHDTVの映像品質評価用テスト画像」】

都竹主査： 「撮影条件」とは。どこに記載があるのか。

西田専門委員： カメラの種類、F値、基準レベル等が管理されていることが、P.69あたりに示されている。

甲斐氏： レポート2408に基づいて撮影されている旨が、P.68に記載されている。

### 3.4. ITU-R SG6 関連会合への対処方針案について

事務局より、資料 放-34-6「ITU-R SG6 関連会合への対処方針（案）」に基づき、SG6 会合への対処方針案について説明が行われた。

## 4. その他

事務局より、資料 放-34-7「今後のスケジュール（案）」に基づき、7月のITU-R SG6 関連会合に関する今後のスケジュールについて説明が行われた。

以上